

慶長年録

十九甲寅
自正月
至九月

六

内閣文庫			
函	冊	號	類
天三	三〇	七	和書
七	六	五	
架	冊	號	類

内閣文庫			
番號	和	30785	
冊數		6 (4)	
函號		163	182

313

共六



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



慶長年録

十九甲寅自二月至九月



松平重定
松平忠政
松平忠房
松平忠房
松平忠房
松平忠房

武蔵守

十月廿一日

慶長十九年

二月朔日甲寅風吹雨體如常

大井戸様江戸より書紙年朔日

將軍家西丸へ由礼由出

二日候晴諸大名西丸へ由仕今又市城由通初

着座左

松平和泉守

松平甲斐守

松平丹波守

松平卜總守

加藤友馬守



右

小笠原公氏

松平山城

小笠原兵助

松平外記

松平河内守

友堂和泉

牧野駿河守

一玄年々冬より大所不炊所馬也荒大方

江戸一浩

一日大市可換市本五（市振舞）市能あり

高砂 百萬

音界

次男、若君

九龍
女國

版中錄三番抄本

世見其書者以爲大名流之見也

一六日諸家之出家大所不可涉禮中之山至附

方より天台に海城に聴聞を授けず

法同清聽聞之後芝間月山寺三百石寺願

彖

一七日 大沛不葛西、沛驚野、出

一九日將軍家、緒宗、出家、礼天台淨土。

法同清聽

東令三省公方極力爲上侵水野
監相水志

一十六日雨降大久保相模より入洛後堂和泉寺殿
 一寺在市中吉利寺丹を石拂中法友中付
 一京寺二ヶ所より西へ京へ寺ハ火を付焼拂
 一京へ寺ハ火を付焼拂二ヶ所ハ住持ハ西海へ
 一けり
 一太市不極葛西より千葉筋へ市野多成
 一それより東へ市成市會今又十三居
 一子負成ハふもれ中ハ房敷多九山内城
 一城敷敷同十八日江戸へ是市又村城敷助
 一死去時旧冬相列中京進校中依江戸へ

以後相模俄に如計

一廿日大久保相模より市助氣

十九日大市不極市回
市後市作市模市

山江組馬燈網へ城より上急曲事
思召同子右京へ賄子へ市進校より

一廿一日小田京へ城清取へは江村ハ仇安友對馬

一内蔵若狹牧野右馬允淺野宗女相平

一城申中本多出雲より力助進士是系城清

江中ハ相列江中
悉進立

一同日大市不極江戸市立

神京河其日友江市言
中京

一廿二日小田京へ市着將軍家へ小田京へ

一市成同廿七日雨降大市不極小田京市出

將軍家江戸へ還所計同小田原へ城二二九
と破り本丸斗也小田原中出々時方箱根山
中同小田原並一人宛弓落馳とて咄出出時
方三橋より大磯迄人留有々
保田是々橋鴨居在る
亦同日三橋へ来る
一同亦九日大所不換駿河へ是所
川口橋迄幸相殿中侍及
方殿及中侍連中出列候事
一 越後國福清へ城水入々地有々石高四町
一 水普清々 徳村の尻 杉平落着々赤沢中納言掣
一 下野々 寂上駿河々 松平隆興々 田原守
一 村上同防々 溝口伯耆々 仙石誠常々
一 佐竹右京進 南羽信康々

一、此江戸市城也。中書清有。
一、此江戸大名府。内居形。結構成を相平。
一、此江戸屋敷。一書也。門結構成。上総女殿。
魯古井大姫。此為中書に江戸より来りて成る。今も江戸に在り。是ハ相列一棟。此中書と云ふ。今も江戸に在り。
一、二月二日大名保相列。羅科己定。今日京師。
一、近江。知事。中白。是。大市。可。快。
一、終身。如。小田原。五石。石。上。
同。破却。
一、中人。曹代。お傳。長十二支。大市。不。
一、中。性。仕。結。中。龍。毫。中。成。つ。夜。も。不。肯。中。意。光。
一、今年。六十二。支。之。根。新。成。事。也。何。人。不。思。得。

好去年十二月 大市不換中京中通之時
馬場八代主のとき者目安をうつる事ある也
是ハ大久保石見謀反もて仕候中よりこの事
有るゆゑにお列と石見入魂にゆく一味仕候
云上中川殿のゆゑさ事とゆゑ相効と夜光
有てゆゑを云らるる中より中川殿の事
中耳に云中川に馬場八代主のハ年八十斗殿
川甲列穴山梅雪家老也云来候人ゆゑ穴山
相果る後於万般舟中色と悪事と
中川殿の事成小田原に波籠居思ひぬりゆゑ
不思候成事た中川殿の事成事と云

不思候成事た中川殿の事成事と云
それにお列結構成中家老と市部人との事
け人へ恵とる候に如賀書と相果の時しに
侍流大小と事小田原（見せし事）殿
中耳に云らるる中川殿の事成事と云
のゆゑと万般の事成事と見ゆゆゑと
相列と養女あり年山に但馬と事
一嫁け女ハ日向と孫女長門と女あり
中川殿の事成事と事成事と事成事と
不候にお列先年石川日向とハお品買也

け儀を云上受。むと云々同辛る不乃地
水意事云々なり。お海りやけ。後述悉く
中不収。出仕中のを画懐。事公。紙書。地
中。公方。快。無具。成。け。地。折。衣。上。目
安。在。中。今。友。お。列。候。余。何。氏。順。を。云。出。る
自。系。下。山。

一 右に縁起に事古石川日向寺に於て
必定也然其時に安藤寺日向孫娘文子
中乞うて後安藤寺に勸進大僧を遣はし
系うて是居りて縁起に事重石不致云々

之也

一、駿河沼津之城破脚之中身經山太久保
治右忠男も去年病死於遠江所立

二月二日淺野但馬守市目見紀元
式部卿是ハ久後大坂ノ人質ニ系秀頼
少子也中ノ也純同於目ノ中リ
大市不換
少子思ハクハ親モ好家老淺野忠重
以下令相決末子ハ淺野宗女ニ在中ノ
市目大市不換ノ兄ハ但馬守ハ
紀元ノ一入

部をけ但馬より下し今日江戸へて糸向を以
作出

一二月十日江戸年寄所元并江戸町中事以
由角より寺紀清文

一同亦二日河波園より浪人并津清右忠門前死
清成敗

一江戸町中大事

一依野修理左衛門内より不儀を連續し事
今味よりして依野より思召申上りし事
今在國江戸より大事を山より見し早

一より京都より山在國元不仕申上り事
一也

一三月大朔日

一依野修理左衛門城破脚より身て令在江戸
公方様より依野

一三月七日加賀家中より山南より中者吉利
支丹より付天連に成宗旨を改て申上り
一同加賀より依野より改申上り
中切付者より荒木元時依長（右近忠節
より者也近年加賀より依野より二万石あり

池田件ハ當代記三十八年
二月廿五日ハ條ヨリコノ合ハナリ

内膳青山大虎少輔堀仔賀也

一同廿六日池田之左衛門及中内儀自彼家駿府
中内室之如子一人中内氏直早世
若年にて後家と成りぬ秀吉云中内實
る池田之左衛門は作付女子を以て左衛門
子と成藏也其後身但け是女無後早世
後政多し子た出せ也之妻大市所中對
面不義の同中内向但中子是は彼家より
之見武藏も情摩有若彼家にて之奪

穀心る國智より中内を以てうとせし

當代記ハ黒事ナリ

之小室系乃事の依も病死に十五小室は仙石
銭前も死に

一同十六日片桐市に大坂へ駿府へ下着

一 け近年大市不換道智女中府中る金浪の
利買ひに使ひ神子を頼りてかき中
け神子利殺成女も甲斐より發せ是は之利
相調迄并た去に池田徳後荒末久事子荒末久事借用
彼浪を神子と信從同徳後用人若荒浪

内胎青山大虎少捕堀仔賀也
一 同亦六日池田之左邊の及中月儀自徳家駿府
中下向是ハ大市所ハ中娘也初小田系氏直
中月室なる女子一人中月氏直早世ハ同
若年にて後家ハ成山氏秀吉云中野実
る池田之左邊の及中月女子を以て左邊の
子息武藏守ハ中月氏直早世ハ
後政多クハ子た出せ也之後大市所ハ中
面不義成山同中下向但中子息ハ徳家ハ中
子息武藏守情摩有若徳家をて取奪

穀心る國智ハ中不中ハ中ハ中

一 二月二日岩舟ハ中ハ中ハ中ハ中
之ハ中系ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中
銭前中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中

一 同十六日片桐市ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中
一 付近年大市不換道智女中府中ハ中ハ中ハ中ハ中
利買ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中
付神子利教成女ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中
中同返中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中
被浪を神子ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中ハ中

由云合彼袋を渡す加振し事なり
 事也或時封を切不見してあ智町へ出
 高人又渡す是を見れハ内々石を裏す
 神子學彼袋持めて右へ用人。返す用人
 令け方不知し中より神子と云事。成て
 あ方あし。神子云汝は我を謀して
 自く渡す事妻を犯し中より事。已落
 一々彼者。押籠達。上聞より振し事
 所守。乃。彦坂。九。之。請。て。お。斗。中。身。作。け。恨
 乃。方。成。渡。後。迄。亦。不。計。と。矢。介。文。同

又上や何てと云後不限歴々
 備用今返非成

一 五月廿日江戸より酒井雅楽師爲中使駿河
一 系是右大臣より中孔より市名代也同八日
一 吉日より出仕浪子三百枚市より一腰 國村
一 中進より也雅楽師より大市市様より長光より
一 市より市を江戸より
一 同市日將柴肥前守越中お卯山より城店癒
一 城より死をふ十三
一 行桐市正計同より追留今日市順より下路より

八月二日大佛にて延徳養子中身作舟
一同廿八日大濃國明智にて遠山氏が少死
八十七
六月六日天台にて三門跡中下向山迄石連
於市城天台にて海賊を討つ
今年松津河内表濃二ヶ國洪水
一同廿一日山に駿河守肥前長崎へ参進
一同廿二日將軍家右大臣市將任にて脱戦
少能少振舞ひ下大小名老成
一蒲生源氏出の近年宰人等駿府に在り

去年月々相海會津へ参下浪次勝也
相好源賀河々中下にて六月十二日死去

九月廿二日
一丸島長崎古有馬修理子忠右衛門依日向國
高橋右近將を参下波領地へ相移りぬ
家中に者一人も不随にて是年天連宗友
也依りて大市取柄より波等命に津島
為りて山に駿河守より作舟人政に津
陸奥より中勢を参下果しの中迄也
一同十七日大坂織田氏が入る死云

七月廿二日
此より大坂中ひそめさるる静也

八月二日大佛にて延徳養子中身作舟
一同廿八日大濃國明智にて遠山氏が少死
八十七

六月六日天台にて三門跡中下向山流石連
於市城天台にて海城を以て中台

今年振津河内表濃二ヶ國洪水

一同廿一日山に駿河馬肥前長崎へ舟遣

一同廿二日將軍家右大臣市將任にて院儀
少能中振舞は下大小名老成

蒲生源左衛門近一年牢人馬駿府に在り

去年月、中相海會津へ舟下洛次膳料
相好河賀河にて中下にて六月十二日死去

九品長崎古有馬修理子長左衛門作日向國
高橋右近治を以て波領地へ相移りぬ

家中に者一人も不随にて是件天連宗左
計依りて大市市柳より波等船中津島

為て山に駿河馬より作舟人政津津
陸奥より中勢を以て中果しの中台也

一同十七日於大坂織田氏船入り死去長

玄妻に比より大坂中ひそめより不静也

大佛に種く路の秀頼に内依僧清澄長老
傳く計澄長老洛陽云々智者也大園
中代より出する藤一と中傳の時方度
系より藤人も隔心好い中神文能書之是
より一派の長老も是を大孫に皆不和流
多し玄同今度大佛に種く路の内國
安康と云に云々あり是を見く日比
澄長老を大孫に一思智に雅僧とも
家康云涸伏に下ふありてけい句を傳ふる
と云く中依表の園東涸伏に依養ある

下と中ありける事駿府のひら
大市市松中三股に成りける所相市に
尋らるる身病者又下向も不計先け事
秀頼公も中代も中好かき清澄長老
傳也と長老の中代も成りける計路の事國家
安康と書付く事家康公ちやうやく
此を中代も一とすて乃事也とてそ
あとの事系を古事本歴を引教多し
文書を書出に中代の中上是の智者を言て
以味仕のり一とて中用いと一書仕指する

十八年七月十七日
幸三原

一 廿見 中書 八月 翌 中 月 井 存 押 於 願

一 七月 廿八日 依 野 修理 主 吏 中 改 易 佐 易 松 布

中 須 廿八日 大市 市 候 所 出 品 同 市 日 候 所 入 品 是 足
罷 科 主 事 之 身 不 存 在 故 之 就 之 終 也

中 之 服 之 韓 長 老 八 彦 坂 九 之 坊 中 須 成

中 之 中 多 上 野 介 宅 八 彦 坂 穿 殿 金 也

日 韓 長 老 一 書 九 上 之 也 終 了 不 可 使 中

市 心 必 是 梅 戸 忠 介 中 者 在 中 須 成 在

中 須 成 在 中 須 成 在 中 須 成 在 中 須 成 在

一 八月 大

朔 日 内 中 月 二 日 大 佛 依 養 之 仕 中 須 日

相 定 七 月 初 日 大 佛 依 養 之 仕 中 須 日

三 家 院 及 元 願 師 妙 法 院 及 相 定 天 台 僧

五 百 人 之 云 僧 五 百 人 寄 依 養 之 用 意 併

六 百 石 春 柳 橋 之 子 万 云 不 可 欠 毎 日 通 國

男 女 寄 依 養 之 用 意 併 六 百 石 春 柳 橋 之 子 万 云 不 可 欠 毎 日 通 國

同 諸 人 之 云 僧 五 百 人 寄 依 養 之 用 意 併

一 同 六 日 末 刻 大 風 及 中 刻 三 河 吉 田 松 平 之 助

建 立 之 倉 下 寺 近 日 之 法 事 之 糧 之 介

寺を譲府へ移下りて申上坂へ移付
 市心部を梅戸忠介と申者を相添夜を
 日につけて移下りて大市所中續添して
 清韓長老一の書取上るを移りす不使中
 中之腹を韓長老ハ彦坂九之坊に中須成
 分々中多上野今宅へ移居穿殿舎也
 一七月廿八日依野修理寺より移居松布へ
 中須廿八日大市所候より作出の同市日江戸へ移居是迄
 罷科より移居なり
 一依見より中書南八月翌中より移居并依野松須
 中須より

一八月大

朔日内より南月二日大佛依養て仕申並日
 相定七月初より大佛殿よりを飾り導師ハ
 三密院殿咒願師ハ妙法院殿相定大僧侶
 五百人より僧五百人寄依費より用意并
 六百石春柳橋より万石不足欠毎日通國
 男女寄依縁群衆数万也此は園東より中之腹
 同諸人むろりて依費もろり
 一同六日未刻大風及申刻三河吉田松平より助
 建立より金下寺迄日て法事よりて糧を介

令支友此俄風吹來寺を一日餘天上へ
吹上家内物も残幕拂吹散河端田町
一所あり吹失人五人死二里斗光牧野村
家十一間吹上老女一人死吹上村
東死三人二里斗光西萬々村も家十間斗
右同前
一八月九日候勢大津宮岡園野上村。飛移
淀宣も枕も亦八日山田遷宮の時雷鳴
風吹下也此同村より濯梅系詣り
一神濯寺持り

八月廿一日

大坂府桐市正岡主膳大野修理清
洛より高下方下向今夜も夜枝近駿府
内淺有府中へ去り八下へ入る河部川を
廻りて惣預寺に在り付旨駿府へ中達し
中多上野分安夜節力成瀬集人傳書
惣預寺へ系巾之腹へ取寄中少小市正
秀頼君も不仕好い韓長老不仕仕り委細
申爲て下りし中少小市正今預中
とありしとて秀頼も將軍様同事
者なりとてとて知る御用伏し成り事

令支交北俄風吹來寺を一昌餘天上へ
吹上家内物不殘幕拂吹散河端田町
一町家吹失人五人死二里斗光牧野村
家十一回吹上老女一人死吹上村
未死二里斗光西苗村家十回斗
右同前
一八月九日候勢大津宮同國野上村飛移
淀宣も然も亦八日山田遷宮の時雷鳴
風吹下也然同村より濯梅系清
一神濯寺持

一自大坂庁桐市正同主膳大野修理清
洛より高申方下向今更も殿枝近駿府
内淺有府中一重入りて入河勢川を
廻りて惣預寺に在り付旨駿府中遠より
中多上野分安殿常力成瀬隼人傳書
惣預寺へ系巾之服より高申方市正
秀頼君も不其好い韓長老不屈仕り
申爲て下りし中より今預市正
とあられし秀頼も將軍様同事
者仍にさして知りて却て河伏

上於蒲系上目安彼者駿府於城下也
備自主搦之 大所而中之腹係目安
其故右搦者籠會之 作付

一自九國長谷川忠之傍駿府へ系中上
け安々来抑悪船へ付天連院云い
け以前のこと 吉利支丹九別小居
仕安々中船中へ相寄る所々賣買の
来へ云上へ系中又長崎迄有る家中者
中成敗へ付るに相寄る事有るなり
一うすちやより上る急子二つ駿府へ来籠

入馬へ付通回しんこも来へ

一亦二日亦に日候勢にヶ市海へ回東へ中船
二艘沈没次賀河波も家人也

一亦七日水野監物江戸番中使駿府へ系中

一亦八日候勢大津宮江戸野上山山田遷宮番
唱大風吹石思儀也此間江戸も大風吹大小名

へ家顛倒も候達政宗松平藩前書酒井
左衛門家門も又顛倒も駿河を別由國
風吹うす

一駿府中城へ女中欲企急送別礼州也

一 一傳天連字也計密通之男は延拂思
透恨之企也計之機を右之男ハ系之也武則
岩舟之方た逆^ミ之れ飛舟を右に捕
波女房ハ野麻衣子帝ノ妹也兄貴子帝も
計科より之押託

一 廿九日當中使者本多上野介江戶へ参る

八月三日ハ 上野介ハ 智考者合色ハ中今味

上野長老中よりけり^{八月廿九日}一也市心

市光ハ成府中へ参り^{八月廿九日}日大坂へ秀頼云

市代長様より大藏々へ局二位へ局正永

三人を中より云ハ駿府へ参る

一 九月二日地震本多上野介自江戶駿府へ

帰来

一 同九日里見女房も出仕し

市上使より之作舟女房國國智ても中中急

あり其身ハ一様と大久保千^{お千様}而て在

中ハ作舟より波衣^{お千様}系廣同ハ在ハ房別

る本多出雲と内殿なるも物如次荒土に在

若家人ハ誰か抱城をハて責殺中も之矣城

於令出國も日比女房願方へ中て後康源

一 一傳天連字也計 密通之男は 延拂思
 透恨之企也計 彼を右之男ハ 系之也武則
 岩舟之方力た 逆之れ 飛舟を 右に捕
 彼女房ハ 野麻衣子 帝ノ妹也 兄是帝也
 計科より 計押籠
 一 亦九日 當中使者 本多上野介 江戸へ 参
 一大仏 獲之 路之 事 智者 歩合 色之 中 今 味
 上韓長老 中 之 計 少 浮明 中 之 市 心
 市光 之 成 厨 中 之 計 日 大 坂 之 秀 形 云
 市代 袋 様 之 局 二 位 之 局 正 永

二人を 出之 ひ 云 之 駿 府 へ 参 遣
 一 九月二日 地震 本多上野介 自 江戸 駿 府 へ
 帰 参
 一 同九日 里見 安房 亦 出 仕 之 公 方 様 へ
 市上 使 之 計 作 舟 安 房 國 國 留 之 事 中 也 意
 あり 其 身 一 僕 之 大 久 保 千 之 在
 中 之 作 舟 之 為 彼 之 系 廣 同 之 在 小 房 別 へ
 之 本 多 出 雲 之 内 友 之 之 物 於 此 荒 土 之 是
 若 家 人 之 難 治 抱 城 之 一 責 殺 中 也 之 矣 候
 於 今 出 國 之 日 比 安 房 願 分 之 中 之 後 康 治

と也
け人太久保相助と孫と嫁いふるは又彼孫を
是又去々年山口但馬中事相列中た
いける就縁者と事及荷擔いふと中い
一叔又駿府と大坂より其系山大藏卿二位局
正永け系い出と山城一系い出とも今
氣を仕七回町と中い宿を死本多上使
湯あちやの局一山案内を中入といけ中
達上卿中いけるより山城一系い出とも
い出あちやより中味山同二女收ひ被

山城無山目と其時濱坂秀頼息災^災い
山と山意意と山意結と其好姫君い山と
いふ人いふと山と山城いふは山前姫君
中女子一人出来とやと山と山子世成り
其山と山子も山と山と山心え思
中い山意と山山城姫君山と山と山
二女中中い山山城姫君と山と山
仕山代秀頼と被述惑い山と山と山
阿い山と山と山と山と山と山と山
女中中い山山城姫君と山と山と山

お水交ぬるを中へ上へ可なり
上へぬる上野中へ我おもへぬ
有と好まざるを中へ上へしや
これハ市心分別にて角に
不仕候より迷惑入り何れも
上へぬるあいさ付也市心重なり
大坂城を中へ上へ何方にて
て下りし又秀頼ハ中へ上へ
て仕事し計内を中へ上へ
けえ上へ城乃後して中へ上へ

年未災異

- 一 不及是飛梅戸患助と中へ上へ
- 一 ちやとあつひひは同根ハ中へ上へ
- 一 其内ニ女中江戸ハ序是も中へ上へ
- 一 同十一日駿府を中へ上へ
- 一 け此駿府ハ町化あり後後松を中へ上へ
- 一 同十一日相平籠前も下駿府肥前式不
- 一 了相違ハ中へ上へ江戸為違七井大炊頭
- 一 来今日着府江戸ハ同乃下と上へ
- 一 好勝にて大井官淀宣有ても合戦山田

お水交好いるそ中より上可なり
上り地より上野中へ我おもへば、中道より
有と好そ果を中道中より上りしや
それハ市心分別にて、さうして角より
不中後史の中迷惑入りた何れも
上極よりあいさ付也市心重なりハ上
る大坂城をより上何方にても磐城を
てよりより又秀頼より中道一年程に
て仕事より計内をより中道中より
けより上り城より愛より中道使より市心

- 一 不及是非梅戸患助より中道老をより使中あ
- ちやよりよりよりよりよりよりよりよりより
- 一 其内之女中江戸より市心より中道より
- 一 同十日中道府をより
- 一 け比中道府より市心あり、後後松をより城
- 一 方よりより清人よりより清人
- 一 同十日日中平筑前より中道府肥前式不
- 一 了相遠より中道府江戸より市心より中道府
- 一 来今日着府江戸より市心より中道府
- 一 好勝より中道府宣有より中道府

紙
月之字可疑
八月廿八日之條
可見

將軍家恨五百枚小袖五十所馬也
 其下之次恨三百枚小袖三十所馬也
 其外恨巾小袖巾馬斗也隨之者人
 一松平武藏守有先達而上自余之氣將在
 江戸也幸而順於其上武列ハ家終事
 六月廿一日於駿府有石籠山女姦を帝成敗
 系之水ハ手足十指切之後追放
 一福清家中者江戶末尾列家前
 一乃石垣を之普清
 一犬坂秀頼氣出既人之外ハ若者乃内

して宰人をくく、武具等用意を深
 け奉り隠密にうきうきとも悪事千里を
 り大市不換市年になち多きは少し色ど
 るひす大坂より子とれの時を以ていふ
 男も女も一時良大佛へ詣り洛へ惡浦
 文句中身の中金地院象光院と言ふなる
 以て外中賤之己に中切に及みぬ。韓長老
 市心駿府に相話る細つゝ中ひゞさし召
 振ふ能お海市心中順は下張上げと云
 園東大坂市中事なる跡で目あふぬと

又市心身并、之実、急減出来君臣和
と成己、乃合残の得る市心外科して
中ひらら大坂退去付事、分終秀頼
中減亡あり、事、運、極、事、急、
事、た出来、俄、園、東、中、身、う、れ、て、中、身、
あり

九月十七

一、月、相、市、心、九、月、九、日、中、順、事、下、り、た、病、乱、散、り、
る、道、中、身、う、つ、ふ、身、う、る、漸、く、九、月、十、七、日、
晚、に、別、古、山、着、り、た、大、坂、女、中、病、も、
當、別、に、泊、り、間、山、家、老、を、中、減、り、る、事、
ハ

明日十八日大坂へて系、忌、我、ホ、ハ、十九日系、暑
て、中、仍、る、然、中、目、流、合、可、り、事、あ、り、何
と、中、減、女、中、身、退、事、市、心、及、中、病、者、
中、身、減、り、る、事、大、雨、り、た、同、事、是、
中、減、り、る、事、退、事、也、市、心、心、地、何、
女、中、身、病、病、一、来、事、以、氣、分、散、り、
市、心、中、ハ、駿、府、を、去、り、對、面、な、り、
上、を、降、り、た、事、漸、く、事、漸、く、
大、量、玉、極、也、と、り、女、中、何、病、者、
事、中、身、病、病、事、為、中、大、慶、同、事、

中ぬ相法は何事や〜人と同市に
吾〜る不々作安ゆび大市可々六々
あそをゆけ〜成り同大坂を改め
見て中〜ぬぬた氣方惣改めはま
ま〜ていぢぬ〜ぬ少も氣方陸中〜け事
何も〜中安を交ぬ〜中女中〜ぬ事
我あ〜も強府〜ぬあ〜や〜ぬ〜我
け陸市〜〜ゆゆ安ゆ中ぬぬ〜ぬ〜ぬ
ぬあ〜ゆ〜ぬぬ〜ぬ〜ぬぬぬぬぬ
中〜ぬ市正安ぬ吾〜〜ぬぬぬぬぬ

ぬぬれぬ中〜ぬ秀頼様、中安ぬぬ
江戸〜〜ぬぬ〜ぬぬぬぬぬぬぬ
あ〜〜ぬぬぬぬぬ又市正安〜ぬぬ
ぬ安〜ぬぬぬ市正子細をぬ中〜ぬ
事をぬ大坂ぬぬ相法〜ぬぬぬぬぬ
病重り〜ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
〜ぬぬ中〜ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
あ〜大坂ぬ〜ぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
市正女中〜ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
や〜秀頼様江戸〜ぬぬぬぬぬぬぬ

死亡する亡霊鬼神は大坂を滅せんといふ
彼女中へ魂こゝは送りうゝるゝも大坂を
正永も急こころりりゝ反駁府ゝ市心
ゝゝゝ方つゝ市心預感ゝゝゝゝゝゝ
何ゝゝゝ市心預感ゝゝゝゝゝゝ
より市心預感ゝゝゝゝゝゝ
我ゝゝ何ゝ市心預感ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
末是也彼女中大坂ゝゝゝゝゝゝ
婦ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



夢外て市心同様是て仕生ゝ秀頼も
市心預感も入らせりゝゝゝゝゝ
一大事を水山同中ゝゝゝゝゝ
思ふ何事ゝゝゝゝゝゝゝ
りて市心同様是て仕生ゝ秀頼も
一味はゝゝゝゝゝゝゝ
市心預感ゝゝゝゝゝゝゝ
市心入るゝゝゝゝゝゝゝ
市心ゝゝゝゝゝゝゝ
市心ゝゝゝゝゝゝゝ

ゆり江戸市巻横と市袋と市一旗と
市事あれは市見と市下向りしと市すめ
市下向りし人質と市中大坂と市城市取
りし市相談相極りし市駿府と市一花
市正殿市園方と人あれはたいむる数
好りぬ道中と山と系舎と我も市正
其事租お清りしと市にてありしと
談をありし市袋も市系と女中と
いふと是より多のうとこと
ありしと名もあしとすあけとふ



ぬ正水も新ぬ
一戸桐市正と山を立系と上り板倉候事
令討談それより大坂より市正と
討談書は伏見と宿と明日と寅ノ刻
船と大坂と着午刻斗と夜更城千代敷
色と市地を市下今更駿府と心算
色と市開山事と市日と山と女中と
お清りし事と市下大野修理村長門
海辺内務と物けと市女中とお清
市正と市同けと人ぬと今更と

ふも重くおねに也と上驛府あな
り米のり中もふれむ也と若者とも
すめの中お流お極中一日と子ノ判事
中袋換より常きく市書あり常きく
波中城のり中池をくく若年安流
お修下り今交種く路中り日けの
市正を驛府へ付立り水くく遠田
能次るく好秀頼へく逆心条く云類
れり付て明日は是るく成敗判也
物をく治何も若年也若老を秀頼

頼安思石明日より市正くく新事指
頼思石より中意也常きく水驛あな市正
ハ逆心条くくかす志くれりき子細
くくハ極くくく若年成敗くく
る園東中も切くく成くく可ハいう
常きく方判る郭納え市正事少中
りてそくく中お流くくく市書
何人へ家老流もけ事を常きくくや
くくくハ生てあくくくくのお流
也若年今つ交中頼りて中流く成中返

未をにづく事いり常を先討
死す中相淡極り家ふ中將極
中相極り家ふ中將極り家ふ
是ハ常き家来也け女付事兼
これハ中茶をすいする所より
天目をつお常きのあるり人
透を見り中をいあり中茶を
いり中今中茶極り中茶を
けれを常き人にて茶をのむ
もてる天目を死にあり又

中使あり市心事重く悪逆
極け上る事羽日より中相
との重るれ中使あり常き
えより妄惑る中又中相見
中相作中相有仕合ふ極け
中相日より中相を中相中
るあり中相中相中相中相
宿中相中相中相中相中相
中相中相中相中相中相中相
中相中相中相中相中相中相
中相中相中相中相中相中相

とつれあはさざと梅田急大坂をて
立退ぬる乃去家早横目と可なり也
如し樂又桑女房を休つれ思ひて
出先今夜申し市心と志しせんとお話
有生約中ハ中流むと暮山市出り来ハ
右と通る子細をす市心方ハ中流箱
入るをり一果親類北村恵知事と申者
秀頼流小舟にハ舟主ハけ者市心も
海者にて舟子也是をたのむを可
中申中快と清江少村方ハリ彼北村と

頼市心方也す市心等池見ハねもそん底
冬と不中記成に中裁り一大事ハて中
斗る名もろく中判斗也市心ハはや
仁るねる又中流小舟多橋と云者を為使
諸白あ標白鳥一運^道船を為持渡府
大府と号してあり常々小舟
討法して荒増お落ありろく小舟代
急をつけられハ市心タアよりを救病中
修理方ハ中流不令宅城舎身之器を
文一不楢龍舟子ハ侍たかハ地集り

用心きひ——同市正下屋敷ハ大坂
三の丸なる同大野修理司外然可
弁果用意——内おも大坂の
たやま——も不承成死老の如く
中老人あり是ハ秀頼巾袋様と少中好
る——市正とる縁者也今不——ハ中業所
に方るあり大坂に在る日比方別々
る——人も中——市正内梅戸忠助と中者
云久不ハ此初終——縁を委細中聞セ
り——云久不——急——宅城中袋様——

修——市正女在る——通在中達する——
部老死——科修——中通叔何も
廿四日廿六日二日同中城と三の丸市正
屋敷を成交も通ひ終る委細中聞
市正貴子出雲中を人質と指上修同中
袋様も秀頼云も市正送ふ——中中
廿七日彼出雲中を中——中城——廿七日
未ノ刻候丹後中青木氏少野村候
堀田島書院速見甲斐中同野豊後中
武部少計七人を中——中修後中今又市正

用心さひ——同市正下屋敷ハ大坂
三の丸なる同大野（紅）煙（紅）を介然可
歩果用急つた内（紅）無籠（紅）の者
たやま——も不無成死老（紅）期日玄久と
中老人あり是ハ秀頼巾袋様と少中好
る——市正とる縁者也今不ハハ中某所
る方るあ右大坂に在ハ日比分別と
る——人も中ハ市正内梅戸忠助と中者
玄久不ハ就初終——縁を委細中聞セ
し——玄久驛さ急さ——宅城中袋様——

修——市正女在玄——通在中達そ——
あ老氣——も玄科修——中通叔何も——
廿四日廿六日二日同中城と三の丸市正
屋敷を成友も通ハ終る委細中——
市正貴子出雲中を人質と指上修同中
袋様も秀頼云も市正送ハ玄——中中用
廿七日彼出雲中を中——中城——廿七日
未ノ刻候丹後中青木氏少野村候様
堀田島書改速見甲斐中同野豊後中——
武部少け七人をハ——終後ハ今又市正送ハ



